



インタビューを受ける遠藤教授（インド）



ホームステイ先のひとこま（アメリカ）



広島国際学院
創立84年



タイの効率的農園見学

未来への希望を抱き広がる活躍

特集 国際交流	2-3
研究科長・学部長就任の挨拶	4
新任職員挨拶	4
卒業式	5
入学式	5
有用な研究を社会に還元 工学部	6
研究の粋を一挙公開 情報デザイン学部	7
好奇心を学業の力に 現代社会学部	8
成功へエンジン全開 短期大学部	9
高校から発信	10-11
本学院学生生徒の活躍	12
女子学生頑張る	13
第7回中学校軟式野球大会	13
進路状況	14-15
特集 地域連携	16
今後の主な行事予定	16



レストランにて（アメリカ）

広報

第85号

平成23年5月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>
※大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

タイ王国への英語での農業実習、学生派遣

工学部教授 佐々木 健

平成22年11月28日から12月3日にわたり、バイオ・リサイクル専攻学生7名(1年6名、2年1名)を引率して、タイのバンコク周辺の農業技術移転センターや開発学習センターおよび関連施設での農業研修及び実習を行いました。大きな目的である国際化への英語の必要性を感じさせるために、全て英語(カタコト英語)での実習を行いました。これは平成20年にタイ農業省と結んだ協定を活用して行ったものです。

この学生派遣は平成22年度の本大学教育特別研究費の支援もいただき、大変成果があったように感じられました。第一に、英語がないと交流できないことを全員肌で感じたようです。英語会話の授業という、一般会話が主で勉強のイメージが



農業技術移転センターで所長(後列左)と植林実習

強いですが、完全に技術英語が飛び交う現場では、とにかく単語やキーワードを駆使してコミュニケーションをとらないと何もできない現状を感じ、英語はサブで技術が主ということを確認し、技術習得の手段である英語をもっとやろうと、帰国する時に全員が言っていたことは驚きでした。

第二に、有機農業、完全循環型農業が実際行われていること、またこの農業で実利をあげていること、化学肥料や農薬を一切使わなくても立派に農業ができることなどを目の当たりにして(広島や日本ではまず見ることができない)大変勉強になったようです。帰国する時は自分からタイ側のスタッフに英語で農業関連の話を積極的に話しかけるなど、もっと英語でバイオや農業をしたい、アメリカやオーストラリアにもバ



乳牛農園で生まれたての子牛へミルク給餌実習

イオ実習や農業実習に行きたい、留学したいと言っている学生も数名いました。

国土開発局のシャバーン博士(本大学で博士取得、佐々木指導)は全行程6日間にわたり同行し、学生に英語で積極的に話しかけるなど、我々の訪問趣旨をよく理解し、献身的にご協力いただきました。今回の訪問先は国土開発局農業技術移転センター、乳牛農園、PBブドウ農園およびワイナリー、有機野菜農場、マンゴー農場、国立農業開発学習センター、効率的農園、ラン農園およびバンコク市内の国土開発局バイオテクノロジー研究室などでした。



国土開発局でバイオ肥料の生産実習
(発酵槽によるバイオ菌の生産)

インド・ラベンシャウ大学との協定締結



ダス学部長と協定書を交わす遠藤工学部長

本大学は去る2月28日、インドのラベンシャウ大学と協定を結びました。ラベンシャウ大学はインドのカタック市に位置するオディッサ州立の大学です。前身となる短期大学や研究所を統合し、2006年に設立。もっとも古い研究所は1869年設立です。2学科、153グループで構成され、学生総数は約6,500人に上ります。

2月26日にインドへ発った遠藤敏郎工学部長と佐々木健工学研究科長は翌日、カタック市のブバネスワール空港に到着。ラベンシャウ大学地質学部および管理学部学部長で本大学客員教授でもあるナチケタ・ダス先生より温かい歓迎を受けました。

翌2月28日、大学の副学長(副学長は学長相当)室にてダス学部長の主導のもと協定締結が行われました。締結式には約7名の各学部の教授と大学のスタッフ約10名、それに20名ほどの報道陣が出席。遠藤工学部長と佐々木工学研究科長が調印し、協定書を取り交わしました。

ダス学部長は、ラベンシャウ大学にとってこれが初の日本の大学との協定であり、広島は平和都市で大変安全であることや、広島国際学院大学が特に環境、水処理、リサイクル関係、教育部門に高い技術および水準を有していることを強調。ラベンシャウ大学との協定のメリットを説明し、人材交流、学生交流、研究交流を今後推進すると強調しました。遠藤工学部長も報道陣のインタビューに対し、広島県がインドとの連携を深めていることに触れ、広島県とオディッサ州との橋渡しをしたい、特に学生交流に力を入れたいなどと答えていました。協定の模様は現地のテレビや新聞等で大きく取り上げられ、日本の大学との協定が非常に大きなイベントとして捉えられたことをうかがわせました。



ラベンシャウ大学正面。約90年前の建物

8,300キロの研修旅行を終えて

2週間のアメリカ研修を終えて車をレンタカーセンターに戻した時、走行メーターは5,221マイル(約8,350キロ)を示していました。日本縦断距離2往復に相当する“長距離”研修に参加したのは、現代社会学部2年生の加藤有希君、城戸航君、高雄康弘君、安平祐介君(以上広島国際学院高校出身)、西野翔太君、花田大志君(以上広島桜が丘高校出身)、木村雄輝君(広島県立河内高校出身)、そして山田真哉君(広島県立千代田高校出身)の8名でした。

3月1～15日まで行われた単位取得可能なこの研修の第一週目は、オレゴン州立大学での言語文化学習とホームステイが中心でした。学生たちは、クラスで英語を学ぶことで大学生生活を経験し、ホームステイすることでアメリカの家族事情を把握し、そして多くの課外訪問をすることでアメリカ社会や文化に



INTO OSUの英語のクラスのNettie先生(左)とポーズを取る安平君、花田君、木村君、城戸君、西野君

“hands-on”で触れることができました。そして、アメリカ生活に慣れてきた学生たちを待っていたのが第二週目の州外旅行でした。訪問したシスコ、ロス、ベガス、そしてグランドキャニオン間の距離は何百キロと離れ、学生たちは広大なアメリカを実感していました。そんな旅行で本当に嬉しかったのは、学生たちが周りの人々と自然に英語でコミュニケーションを取っていたことです。8,300キロの長さは、学生たちが異文化の中で成長した長さだと感じ、そのせいか、アメリカを発つ時の皆の背中が大きく見えました。



オレゴンコースト(海岸)で週末をホストファミリーと過ごす花田君(左)

研究科長・学部長就任の挨拶

工学研究科長就任にあたって

大学院 工学研究科長 李木 経孝



本大学大学院工学研究科は、平成8年に修士課程、平成11年に博士後期課程が設置され現在に至っています。この間、多くの大学院生が入学し、学部教育で受けた学問や技術をレベルアップするとともに最先端の研究を行い、産業界や地域社会に貢献できる優秀な人材として育てています。また、大学院で行われる高度な教育・研究の存在は、学部の教育環境にも良い影響を及ぼしており、本大学の社会的評価向上に寄与しています。一方で、大学を取り巻く環境変化に向けて行われてきた学部改組に対応する時期にきています。これまで大学院が果たしてきた役割をしっかりと維持しながら、大学院組織の改革を行うことが、今後の課題です。このような大事な時期に、工学研究科長を拝命しました。大学院、ひいては本大学全体の発展を目指したいと考えています。教職員の皆様、よろしくご協力をお願いいたします。

工学部長就任にあたって

工学部長 佐々木 健



この度、工学部長を拝命いたしました。これまで遠藤敏郎前工学部長を支えつつ、微力ながら本大学のために力を尽くしてまいりましたが、これからは工学部のトップとして、教育研究に全力を尽くす所存です。いわゆる工学離れと世間で言われている現状で、どのように本大学工学部の教育の素晴らしさや魅力を、地元企業や高等学校へアピールしてゆくか、また学生さんが時代の流れに対応したより充実した工学教育を受け、希望の進路へ進めるように、基礎学力育成を中心にした人間教育の推進などの教育改革を進めてゆくことなどが、当面の最重要課題と考えております。皆様のさらなるご指導とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

新任職員挨拶 —はじめまして よろしく—

しのだ よしひろ
篠田 義博
総合工学科教授



県立広島大学で永年英語教育に携わってきましたが、このたび、教授として本大学の教育・研究に参加することとなりました。新たな学びを得て、皆様方のお役に立てればと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

ジョン モレル テナント
情報デザイン学科外国人講師



今年度より本大学に講師としてお世話になります。15年間、韓国と日本で幼稚園、小中学生や高校生、大学生から社会人まで、英語を教えた経験があります。本当に使える英語を勉強しましょう。よろしく Beijin いたします。

かねやす みほ
兼保 美穂
高校教諭



今年度より、専任教諭として勤めさせていただくことになりました。中学、高校、大学生の3人の母でもあります。子育ての経験を活かし、保護者の立場にもなりながら、生徒と感動を共有していきたいと思っています。どうぞよろしく Beijin いたします。

かわもと かずなり
河本 和成
高校教諭



本年度より、教諭として勤務させていただくことになりました。「教育は愛なり」の建学の精神のもとに、常に生徒一人ひとりと向き合い、愛を持って接することで、生徒とともに成長していきたいと考えています。どうぞよろしく Beijin いたします。



平成22年度卒業証書・学位記授与式

卒業式

【大学・短大】

3月19日、平成22年度大学・短期大学部合同卒業証書・学位記授与式が執り行われました。

卒業生に奥田勉学長は「大学で学問と技術の基礎を習得された皆さんが、社会が必要とし、社会で活躍する人材として日々成長していくことを期待しています。『素直』『柔軟な思考』『情熱』を常に心がけてください」とはなむけの言葉を贈りました。また、11日に発生した東日本大震災にも触れ、被災地の方々を思いやるとともに、復興に積極的に関わるよう求めました。卒業生による答辞でも、冒頭で震災犠牲者に哀悼の意を表しました。笑顔ありまた涙あり、思い出と希望を胸に卒業生は巣立っていきました。

卒業式に先立ち、学友会(ボランティア愛好会)のメンバーが会場前で震災被災者を支援する募金活動を行いました。

【高校】

時折吹く冷たい風に、春の訪れを待ち遠しく感じる3月1日、高等学校体育館にて第62回卒業証書授与式が挙行されました。347名の卒業生に太田茂校長は、体育祭や文化祭そして課外活動などで生き生きとした姿を存分に披露し、見ているもの全てに感動を与えてくれた卒業生全員に尊敬と感謝の気持ちを述べました。次に価値ある人生を送るために「今日」を生きることは「明日」を生きること。常に「未来への希望」と自らに誇りを持って力強く生きて欲しいことを話しました。式典終了後の教室や校庭ではお世話になった先生方や友人と記念写真を撮り、別れを惜しむ姿が見られました。そして、祝福と喜びの中、それぞれの夢と希望を胸に本高校を巣立っていきました。



第62回卒業証書授与式



平成23年度入学宣誓式

入学式

【大学・短大】

ほころび初めた桜の花が澄んだ青空にひととき鮮やかに映える4月5日、平成23年度大学・短期大学部合同入学宣誓式が厳粛に執り行われました。式の冒頭では参列者が東日本大震災の犠牲者を悼み、黙祷を捧げました。その後、奥田勉学長が入学許可宣言を行い、次いで新入生代表が力強く宣誓しました。

奥田学長は式辞で「今回の災害で、自然の前に人間の力がいかに小さいかを思い知らされました。復興への努力と同時に、自然災害を緩和する努力を続けることが残された者の使命とします。日本は閉塞社会といえる現状ですが、社会問題は必ず解決できるのです。皆さんの英知を持って未来を切り開いていってほしい」と新入生を激励しました。

【高校】

ここ数日の暖かさに、開花を待ち侘びていた桜も一気に花開き、朝からの雨が木々の生命に潤いを与え、躍動を感じる4月8日、広島国際学院高等学校第65回入学式が挙行されました。525名の新入生に加えて、保護者の方が出席される家庭が多く、二階席まで満席の状況でした。教育への関心の高さや本高校への期待を背に感じながら、太田茂校長は、本高校の生徒としてのあるべき姿と3年後の自分自身のゴールイメージを明確に描ききるために、高校生活における全てのことに積極的に取り組んで欲しいことを述べました。本高校の吹奏楽部による歓迎演奏が入学式に花を添え、高校生活の第一歩を踏み出しました。



第65回入学式

有用な研究を社会に還元

工学部

一日大学生 in 広島国際学院大学「安芸区の魅力探索」

広島市安芸区内5つの公民館共催による「安芸区の魅力探索」の一環として、「一日大学生 in 広島国際学院大学」が開催されました。本イベントには、安芸区在住の一般市民の方々31名が参加され、通常の大学講義スタイルである90分講義の受講体験や実験実習、本大学図書館における資料



ロボット作りの現場を見学

展示等の見学、さらに、学生会館でのバイキング形式の昼食体験など、普段知り得る機会の少ない大学の教育・研究等の魅力、本大学の地域貢献等の様々な活動について、深く学ぶことができました。



講義を受ける参加者

広島テレビ「旬感テレビ派ッ」から取材を受けました

バイオ・リサイクル専攻にて開発を進めている「米ぬか」「米のとぎ汁」の双方を原料とするバイオエタノール生産とバイオエタノール燃料利用車両に関するTV取材を受けました。取材内容は、1月20日広島



バイオ燃料で走る自動車

テレビ「旬感テレビ派ッ」(当番組コメンテーターとして、本大学現代社会学部長・迫先生が出演)にて、紹介されました。

4月中には、新たに電気エネルギーとバイオ燃料の双方を利用することが可能なハイブリッドバイクを完成する予定です。これからも、エコで楽しく、役に立つ乗り物を開発していきます！



バイオ燃料生産の様子を取材

「第一種電気工事士」の国家試験に合格！

電気システム専攻では、「電気工事士」取得のための取り組みとして「回路技術1」「回路技術2」の科目を授業カリキュラム内に設定すると同時に、「第二種電気工事士」「第一種電気工事士」の国家試験の実施日に合わせた集中講義による受験対策講座の開講を行っております。平成22年度、上記受験対策講座を受講したいずれも2年の



実技試験の練習に励む(左から)苗君、西本君、中村君

卒業制作選抜展

情報学部情報デザイン学科4年生による卒業制作選抜展が、広島市中区にあるアステールプラザ・市民ギャラリーにて2月18～20日までの3日間、開催されました。

立町キャンパスの移転に伴い、今年度からはアステールプラザで行うことになりました。

情報工学科の研究紹介やデモンストレーションも行われました。

また、初日は2件の基調講演も開催されました。

広島市立大学大学院芸術学部デザイン工芸学科 教授 及川久男先生に「地域とデザイン」というテーマで、尾道大学大学院美術研究科 名誉教授 磯田皓先生に「えっ？」というテーマでお話をいただきました。また、本大学近隣の中野東地域の子供たちを中心に行われた二つのワークショップ「オリジナルデザインで作る缶バッジ」「オリジナル時計を作ろう」も行われました。

例年よりも大勢のお客様に足を運んでいただき、選抜展は盛況のうちに終えることができました。



アステールプラザを会場に開かれた卒業制作選抜展



アニメーション作品を鑑賞する参加者



広々としたギャラリーに学生渾身の作品が並ぶ



情報工学科の研究紹介

好奇心を学業の力に

2020年を特別な年に

1月26日、現代社会学部1年生のプレゼминаールⅡをととして、広島市市民局オリンピック招致検討担当課の方をお招きし、夏季五輪広島招致に関してお話を伺いました。本市における五輪開催のためにはどのような準備が必要となるのか、施設・設備はどのようなのか、一体どれくらいの費用がかかるのか、開催の理念は何なのかなどについて詳細に説明をいただきました。ディスカッションでは多くの学生が質疑に参加しました。



広島オリンピック招致プレゼンテーション

この動きは秋葉広島市長の提唱する『2020年核兵器廃絶運動』と大きな関わりがあります。市長はかねてから世界平和市長会議(世界150カ国、4,467都市で構成される)議長として、核兵器廃絶に情熱を捧げてこられました。これについて被爆都市の市民として共鳴するところがあります。

しかし市長は年頭の挨拶で4選不出馬を表明され、五輪招致に関しては次期市長の判断に委ねられることとなり、このことについてはさらに混迷を深めることとなりました。



卒業論文発表会

卒業論文発表会を終えて

本学部では2月12日、袋町キャンパスを会場として卒業論文発表会を実施しました。4年生の所属する9ゼミのうち6ゼミから計7名の学生が登壇しました。音声、映像資料等を駆使した熱のこもった報告に対して、フロアからの質問、山田陽子講師、伊藤泰郎准教授からの講評があり、各テーマについてさらに議論が進展し、理解が深まりました。

発表者	題目	ゼミ
澄川 大輔 (広島国際学院高校出身)	「若年層の薬物乱用～実態と防止への取り組み～」	谷口ゼミ
江角 皓平 (広島国際学院高校出身)	「近年の大河ドラマにおける視聴率低下の原因」	古閑ゼミ
森岡 訓充 (広島県瀬戸内高校出身)	「菓子文化の変容について」	池本ゼミ
原 直也 (廿日市西高校出身)	「旧瀬野川町の歴史と現状―農業を中心に―」	山本ゼミ
勝坂 友洋 (賀茂北高校出身)	「日本の食糧問題」	高畑ゼミ
山上 達也 (向原高校出身)	「千葉ロッテマリーンズファンのネットワーク～黒の軍団の連帯～」	谷口ゼミ
李 斌 (中国・遼寧省出身)	「中国における日系企業の伸長について」	栗原ゼミ

学生の図書館活用について

本学部では「リサーチマインド」を学部の教育研究活動のキーワードに掲げ、社会の出来事に好奇心を持ち、現場に足を運び、観察し、人と会って話をし、また、さまざまな既存研究やデータにあたってみることを学生に奨励しています。

平成22年度図書館(本館)優秀利用者表彰一般図書で、高雄康弘君(2年・広島国際学院高校出身)が230冊で堂々の一位。娯楽図書部門でも清水敬介君(3年・熊毛南高校出身)が402冊で一位となりました。また、既に学院広報84号で掲載されたとおり、図書館企画行事の2010年度図書館懸賞作品コンクールでも、本学部の学生が最優秀賞、優秀賞を獲得しています(図書館だより47号に本文掲載)。

学生の情報検索に占めるインターネットの活用の高まっていますが、図書館で書籍に触れ、そこに書かれていることを吸収することも引き続き大変に重要です。図書館のさらなる利用が期待されます。

7年連続100%合格達成

— 1級小型自動車整備士技能学科(筆記)試験 —

平成22年度の自動車整備士登録試験(平成23年3月20日実施)の合格発表が4月5日に行われました。結果は次表に示すとおり、1級は100%(開設以来7年連続100%)、2級ガソリンは98.5%、2級ジーゼルは100%の好成績をあげることができました。

2級自動車整備士技術講習会は、卒業予定者全員が参加して昨年10月に開講式を行い、約4~5ヶ月間かけて実技免除のための学科・実技講習を行いました。

また、同時に登録試験に向けた受験対策も徹底的に行いました。個人指導対象学生が行った模擬試験は100回を超え、徐々に得点上がるのを喜んでいました。

一方、1級小型自動車整備士については、2月から本格的な登録試験対策として、教科書を徹底的に熟読し模擬試験の内容変更や予想問題の作成など実施してきました。今回の登録試験は、問題用紙が回収されたため出口調査や出題傾向を当日に行うことができませんでした。後日、問題解説を作成した折、非常に時間がかかる計算問題が多く、内容も例年に比べ難しくなっていたのを感じました。



模擬試験の様子

登録試験結果(平成23年3月20日実施)

	卒業者数	受験者数	合格者数	合格率
1級小型(筆記試験)	6名	6名	6名	100%
2級ガソリン	68名	67名	66名	98.5%
2級ジーゼル		33名	33名	100%

来春も就職率100%を目指し採用試験スタート

—学内会社説明会—



会社説明会

1月31日と2月1日の2日間、来年春の卒業生(1年生)を対象とした「学内会社説明会」が、昨年に引き続き「ブース方式」で実施されました。

説明会には県内のメーカー系ディーラーをはじめ、製造業、損保系調査会社、特殊車整備業、一般整備業、公務員系、自動車製造メーカーなど55社が参加。各ブースにおいて希望する学生に対し「募集人員、教育・待遇面、将来性」など説明され、学生からの質問にも懇切丁寧に応えていただきました。学生からは、直に企業からの説明を聞き進路先の選択肢が増え、大いに役立ったとの感想がありました。

昨今の就職状況の厳しさを反映してか、学生の動きも活発で、一人平均8~9社の説明を受け盛況のうちに終了しました。

学生からは採用試験がスタートすることへの緊張感が伺えました。

教育方針説明会を実施

4月5日の入学宣誓式の後、新入生と保護者の方を対象に自動車短期大学部の教育方針説明会が行われました。

初めに庶務課の松田課長から保護者の皆様に、後援会の内容説明と活動に対する協力のお願がありました。次に知名短期大学部長が本短大の教育方針、楽しい学生生活を送る上でのお願い、進級・卒業要件、整備士資格取得状況の説明やチューターの紹介などを行いました。続いて就職担当の川口参与が就職活動の注意点を今までの指導経験も交えて詳しく説明しました。その後、健康診断時の注意事項などを保健室の木村係長に説明してもらいました。これからの学生生活を有意義に送るための大切な説明であり、皆さん熱心に聞いておられました。

今年度の自動車短期大学部の入学生は留学生6名、女子4名を含む総勢86名です。張り切ってスタートしましょう。



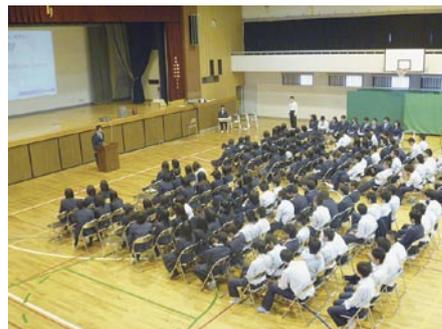
担当者の説明に聞き入る新入生と保護者

総合学科の取り組み

本高校総合学科は昨年度より、前身である総合システム科を引き継ぎ始動しました。

本学科は1年間を通して、生徒の「進路選択」や「職業観の確立」を追求するため、「大学訪問」や「進路学習」さらには各自与えられたテーマを人前で発表する「プレゼンテーション」を実践するなど、教科活動では味わえない貴重な時間を過ごしてきました。

近年、混沌とした社会状況の中、自らの将来を描くことが難しい時代とされています。生徒たちにとって、自分は何に興味があり、自分をどう磨いていくか、試行錯誤を続けた1年だったと思います。しかし、自分のことに一生懸命になった日々は、今後の進路決定に大きな糧になると思われます。まだ歩み始めたばかりの総合学科ですが、様々な教育活動に注目してください。



社会問題プレゼンコンテスト

国際学院ならではの修学旅行（4泊5日だからできること）

本高校の修学旅行は、1年次に国内2、海外2の4つの旅行先から1つを選択して2年次に実施されます。昨年度は10月14日から北海道、沖縄、ハワイ、韓国の4つのコースで進められました。その様子を写真でご覧ください。



北海道 ラフティング



沖縄 スクーバダイビング



ハワイ ダイヤモンドヘッドにて



韓国 韓国文化体験

芸術鑑賞会 —感動の2時間でした—



芸術鑑賞会

12月21日、芸術鑑賞会が広島市文化交流会館において行われました。今回は1部と2部に分けて「沖縄の唄と踊りとエイサー」そして「本高校の有志によるダンス」を鑑賞しました。1部は沖縄芸能を広める活動をしている「南風ユニット」というグループの唄、演奏、舞踊を楽しみました。「涙そうそう」や「島人ぬ宝」など耳慣れた唄や琉球國祭り太鼓の獅子舞、勇壮なエイサーなど沖縄を満喫することができました。2部は本高校の有志とはいえ、放課後の練習を毎日積み重ね、素人とは思えない踊りと演技力を披露し、見る者に感動を与えてくれました。ほんとうに素晴らしい内容でした。

文化祭を終えて

平成22年11月21日、第49回広島国際学院高等学校文化祭が盛大に開催されました。各クラス・クラブで団結して取り組んだ展示物や模擬店バザーなどでにぎわう中庭の風景は例年どおりでしたが、今年度は例年と違う点がいくつかありました。その一つが、3号館の校舎に大きく掲げられた巨大モザイク壁画です。ちょうど西暦と同じ2,010枚の台紙にそれぞれ48枚ずつ、合計95,000枚を超える折紙を全校生徒で貼



にぎわうバザー



校舎に掲げられた巨大壁画

り付けてまとめた、まさに全校挙げての展示物となりました。「原爆ドームと蝶」をモチーフにした縦10m横16mの巨大壁画を眺める生徒達の姿は、どこか誇らしげであり、困難なことを成し遂げたという達成感とそこから生まれる自信に満ち溢れていました。

このほか、生徒有志による体育館ステージでのダンス発表やハンゲルスピーチ大会など、今までにない企画が実施されました。文化祭において「達成感のあること」「新しいこと」にどんどんチャレンジしていく姿勢は、来年度も引き継がれることでしょう。

マラソン大会

前日からの寒気の流れ込みにより、日本列島全体が大雪になるという予報から、開催が危ぶまれたマラソン大会。当日は大変寒かったものの、2月11日に予定どおり決行することができました。2年生男子に始まり、最後の1年生女子まで順に773名がスタートしました。校長の開会の挨拶にあった「自分の限界に挑戦することで素晴らしい思い出を刻み込もう」という言葉どおり、大半の生徒がベストを尽くし、完走することができました。



マラソンは自分との戦い

マラソンは自分の心との戦いです。この経験から、「しんどさ」から逃げようとせず「続けよう、追い越そう」とする気持ちを高校生活の中で活かして欲しいと思います。

避難訓練

災害列島と呼ばれる日本。いつ、どこで発生するかわからない災害に対して、私達は「自分の命は自分で守る」という意識を高め、日頃から防災の知識と情報の確保に努める姿勢を養う必要があります。その指針のもと、2月24日に防災避難訓練を実施しました。避難行動の決まりである(押さない、走らない、しゃべらない、戻らない)を守りながらグラウンドに集合しました。全員の点呼確認が報告された時点で訓練は終了しました。生徒達が迅速に行動した成果もあり、目標としていた時間よりも早く訓練を終了することができました。

東日本大震災のように想像を遥かに超えた自然の力に人間の無力さを感じながらも、いろいろな災害に対する知識を深め、日頃からできることを考え、実践していくことが大切です。



防災への備えを日頃から

本学院学生生徒の活躍

— 栄光を称える —

平成22年度も本学院の学生や生徒がサークル、部活動で活躍し、数々の賞を獲得しました。主だった成績をご紹介します。



中国四国学生アーチェリー王座決定戦で優勝したアーチェリー部

【大学・短大】平成22年度部活動成績

サークル名	受賞者	出場大会名	成績
アーチェリー	才原 光平 (4年 可部高校出身)	第40回中国四国学生アーチェリー王座決定戦 (男子団体)	優勝
	斎藤 大奨 (3年 魚津工業高校出身)		
	炭本 拓郎 (4年 広島工業高校 (県立) 出身)		
	炭本 拓郎	第40回中国四国学生アーチェリー個人選手権大会 (男子)	2位
	石田明日香 (1年 広陵高校出身)	第40回中国四国学生アーチェリー個人選手権大会 (女子)	優勝
	石田明日香	第40回中国四国学生アーチェリー新人選手権大会 (女子)	優勝
	石田明日香	第15回中国四国学生室内アーチェリー個人選手権大会 (女子)	2位
	石田明日香	第30回中国四国学生アーチェリーフィールド選手権大会 (女子)	2位
石田明日香	第20回全日本室内アーチェリー選手権大会 (女子)	6位	



ゴルフ部



レスリング部

【高校】平成22年度部活動成績優秀者理事長表彰

部名	受賞者	出場大会名	成績
ゴルフ	村山 駿 (2年 呉市立昭和中学校出身)	第16回中国ジュニアゴルフ選手権競技	1位
	久志岡俊海 (3年 仁保中学校出身)		3位
レスリング	白雲 央樹 (3年 高屋中学校出身)	第49回中国高等学校レスリング選手権大会	2位
	寺尾 浩幸 (2年 西条中学校出身)	平成22年度全国高等学校体育大会レスリング競技	5位

女子学生頑張る

夢を諦めないこと ～学校の先生になるために～

工学部 電気電子工学科 平成23年3月卒業 吉本 真美 (広島県立広島工業高校出身)

私が教員になりたいと思ったのは、高校在学中に私を励まし勇気づけて下さった先生方に憧れを抱いたことがきっかけで、専門である電気を活かして教員になりたいと思い本大学に入学しました。

教員採用試験に向けて勉強を始めたのは3年生の秋頃です。教育理念や方法を自然な形で記憶に残せるよう、暇を見つけては資料を読み続けるようにしました。また過去の出題をチェックして傾向を探り、重要なポイントを何度も読んで書いて覚えました。この時、自宅はテレビなどの誘惑が多く集中できないと思ったので、1人カフェに行きコーヒー片手に勉強をするようにしました。勉強がストレスにならず、良い意味でリラックスをして進めることができたと思います。

4年になり教育実習に行きました。生徒達も夢に向かって努力している姿を毎日見ていると、こちらもやる気が漲り、より勉強にも力が入りました。

迎えた採用試験当日は大変緊張しましたが、家族、大学の先生方、友達、実習校と母校の先生方、やる気を分けてくれた実習校の生徒の皆の姿を思いながら、全力投球で試験に取り組みました。合格と分かった時は、感激と驚きで涙が止まりませんでした。

私の大学生活4年間は大変充実していました。朝から夕方まで続く講義、サークル活動、アルバイト、そして教員になるための勉強。辛くて弱気になり投げ出したくなる日もありました。だけど「辛さ」も大切な「経験」であり「糧」となる日がくると私は信じています。4月から学校現場に立ちます。大学での経験を活かせるよう、何事も精一杯取り組んでいこうと思います。



吉本さん



熊野東中と矢野中による決勝戦

第7回中学校軟式野球大会

12月4～5日の両日、毎年恒例の「学校法人広島国際学院理事長杯中学校軟式野球大会」が行われ、熊野東中学校が念願の初優勝を遂げました。

爽やかな青空が広がる12月4日、本大学野球場と瀬野川公園野球場の2ヶ所で好ゲームの数々が展開されました。翌日は準々決勝に進出した4チームが優勝を賭けて熱戦を繰り広げました。激戦を勝ち抜き決勝に駒を進めたのは、矢野中学校と熊野東中学校でした。

2校のいずれが勝利しても初優勝の快挙となる決勝戦は、序盤から熊野東が猛攻を仕掛けます。矢野も1点を返すものの及ばず7-1で試合終了。熊野東が初めて大会を制しました。

平成17年にスタートした大会も第7回を数えます。今回も大学硬式野球部の部員多数が、審判にグラウンド整備等にと大会運営に活躍しました。かつてこの大会に出場した経験を持つ部員もいます。その一人、西谷雄太さん(2年 広島国際学院高校出身)は「熊野東中の皆さん、優勝おめでとうございます。準優勝の矢野や他の中学校の皆さんも大健闘でした。私も坂中学時代に出場し優勝しましたので、この大会にはとても思い出があります。大会を通じて一人でも多く、そして長く野球を続けてもらえたら嬉しいです」と話しました。

また今大会には広島市安芸区役所に加え、本大学硬式野球部OB会からの後援も得ました。出場中学校関係者、後援諸団体の皆様に深く感謝申し上げます。

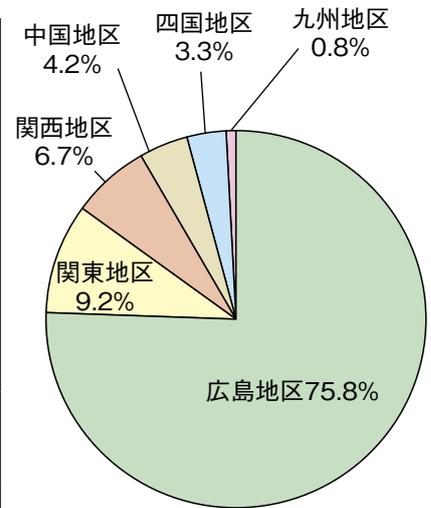


グラウンド整備をする大学硬式野球部員

- 厳しい国際競争のもとで企業が求める「目的達成能力」、「問題解決能力」のある人材の育成に努めています。
- 従来から元気で実践力のある学生を育てており、実社会での活躍が評価され近年約24倍以上の求人倍率を得て、高い就職率を達成しています。
- 就職模擬試験をはじめ面接・作文の指導など、学生の就職活動を教員と就職課がきめ細かくサポートします。

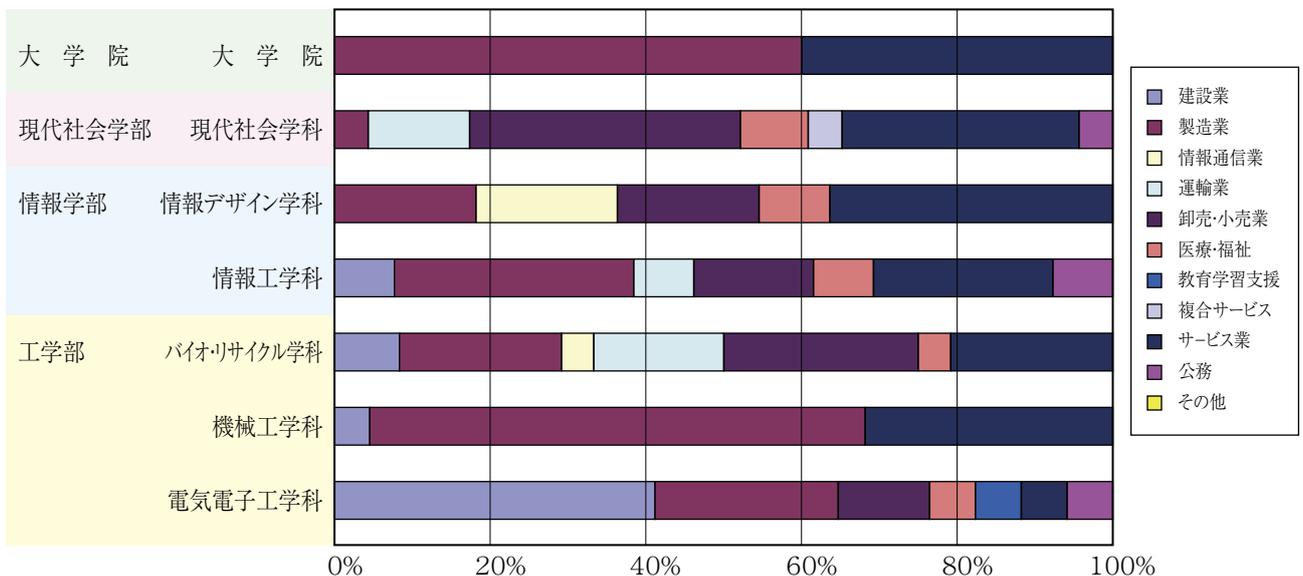
主な就職先

	工学部	情報学部	現代社会学部	大学院
広島地区	JFEスチール(株)西日本製鉄所 日新製鋼(株)呉製鉄所 (株)エディオンWEST (株)中電工 (株)マツダE&T 月星海運(株)呉事業所 デルタ工業(株) (株)ロジコム (株)ヒロタニ (株)オガワ 朝日工業(株) 広島県高校教員	(株)アスコ 西日本三菱自動車販売(株)広島支店 (株)音戸工作所 西日本リネンサプライ(株) (株)ニックス 大成ナグバス(株) 中国精螺(株) (株)にしき堂 (株)ノムラストアー ㈩榑原エンジニアリング 医療法人社団ひがしの会	(株)ハーティウォンツ (株)ロジコム イワタニ山陽(株) (株)フレスタ 伯和グループ 西日本リネンサプライ(株) サンフィールド(株) アンデルセングループ (社)総領福祉会 オールハウス(株) (株)広島ニチレイサービス (株)ノムラストアー	(株)サタケ 広島総警サービス(株) 安田金属(株) (株)広島精機 (株)久保田鐵工所
関東地区	(株)日本製鋼所 (株)サンテック 日本建設工業(株)	(株)ガイア	(株)バルス	
関西・東海	岡本電気(株) (株)三ツ知 兵庫県警察	亨代クリエイト(株) ㈩日本サンガリアベルレッジカンパニー	大和冷機工業(株)	
中国・四国	大黒天物産(株) (株)テラマチ	(有)クレオ	エルクホームズ(株) 出雲市消防本部	



地区別就職先

業種別就職状況



平成22年度

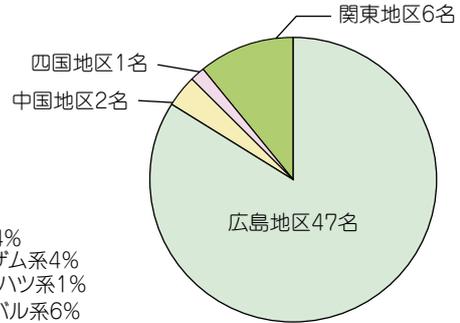
広島国際学院大学自動車短期大学部進路状況

平成23年3月30日現在

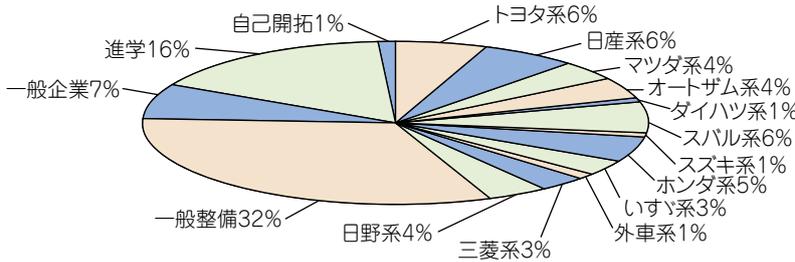
進路状況

卒業生数	68名
就職決定者/希望者	56名/56名
進学決定者/希望者	11名/11名
自己開拓等	1名

地域別進路状況



卒業生の進路内訳



平成22年度

広島国際学院高等学校進路状況

平成23年3月30日現在

学 科	性 別	在 籍	進 学				就 職					
			大 学	短 大	専 門	未 定	県 内	県 外	公 務 員	自 営	自 己	未 定
総合システム科	男	47	26	6	8	0	7	0	0	0	0	0
	女	40	13	4	18	0	3	0	0	0	2	0
普 通 科	男	128	106	2	8	8	0	0	2	0	2	0
	女	132	89	17	17	4	2	0	0	0	3	0
合 計		347	234	29	51	12	12	0	2	0	7	0
		%	93.9				6.1					

大学・短期大学 合格先

	大 学	短 期 大 学
中四国	広島大、徳島大、山口大、高知大、島根大、鳥取大、愛媛大、県立広島大、広島市立大、尾道大、島根県立大、福山市立大、水産大学校、比治山大、広島経済大、広島工業大、広島国際大、広島国際学院大、広島修道大、広島女学院大、広島都市学園大、広島文化学園大、広島文教女子大、エリザベト音楽大、安田女子大、福山大、福山平成大、徳山大、岡山理科大、岡山商科大、倉敷芸術科学大、川崎医療福祉大、環太平洋大、吉備国際大、山口東京理科大、山口福祉文化大、松山大	山陽女子短大、鈴峯女子短大、比治山大短大部、安田女子短大、広島文化学園短大、広島国際学院大自動車短大部、新見公立短大、国立波方海上技術短期大学校
その他	京都教育大、三重大、室蘭工業大、拓殖大、東海大、国土館大、専修大、東京国際大、国立音楽大、中央大、高千穂大、帝京大、名城大、京都産業大、近畿大、関西学院大、同志社大、立命館大、京都精華大、関西外国語大、大阪芸術大、大阪体育大、大阪国際大、神戸学院大、神戸国際大、西南学院大、九州共立大、久留米工業大、九州看護福祉大	戸板女子大

専門学校 合格先

広島高等歯科衛生士専門、IGL医療専門、広島福祉専門、広島デンタルアカデミー専門、広島市医師会看護専門、広島医療保健専門、MSH医療専門、朝日医療専門、トリニティカレッジ広島医療福祉専門、広島医療秘書こども専門、岡山労災看護専門、湘南歯科衛生士専門、呉医療センター附属呉看護、呉共済病院看護専門、広島県立三次看護専門、穴吹ビューティ専門、広島会計学院電子専門、広島県理容美容専門、広島工業大学専門、広島公務員専門、広島ビューティーアート専門、広島YMCA専門、広島アニマルケア専門、広島コンピュータ専門、広島情報ビジネス専門、広島ビジネス専門、広島情報専門、広島美容専門、広島酔心調理製菓専門、広島リゾート&スポーツ専門、大阪スクールオブミュージック専門、放送芸術学院、関西美容専門、麻生情報ビジネス専門、東京環境工科専門、日本ナレーション演技研修所、日本外国語専門、バンタンデザイン研究所渋谷校

主な就職先

(株)キーレックス、(株)中電工、新明和工業(株)、日本通運(株)広島支店、(株)ソルコムマイスタ、(株)ロジコム、(株)オーエイプロト、(株)ケイアイホールディングス、(株)ソルコム、宮本歯科医院、(株)東横イン、(有)亀石、(株)ソプリングループ、三共化学工業(株)、自衛隊、警察官

地域連携

— 未来の大学生たちと体験学習 —



夏休みキミの自由研究応援します

楽しく、興味をもってくれる子供たちの笑顔と表情をみていると、この子供たちが早く大きくなってもっと多くのことを学んでほしいものだと思います。

「夏休みキミの自由研究応援します」

8月12日 場所：本大学 中野キャンパス

公民館との共催ですすでに10回を数え、毎回申し込みが殺到する夏の人気イベント。実験や制作を通して科学の面白さを子供たちに易しくわかりやすく伝えます。



うごくロボットとあそぼう！
(府中ひかり幼稚園)



うごくロボットとあそぼう！
(明和保育園)

地域連携センターでは、年間を通じて「未来の大学生」となる子供たちと交流を重ねています。共に学びまた遊び、そこから得た知識や興味をこれから生かし伸ばしてもらおうと試んでいます。

さまざまなジャンルにおいて、それぞれに体験することで、保護者と児童・幼児に研究の一端を披露し段階的に理解度を深めていきたいと願っています。

昨年度、地域の児童や幼児と保護者をまじえて行った交流をご紹介します。地域連携センターが近隣の公民館や施設と協力し、各学部の先生方と学生たちの体験指導で開催しているものです。



ワークショップに参加した子供たち

「ピンクリボンのラッピングバスで行く無料ワークショップ」

2月19・20日 場所：アステールプラザ広島

経路：瀬野駅→中野東駅→アステールプラザ広島→中野東駅→瀬野駅

本大学情報デザイン学科の卒業生がデザインしたラッピングバスに乗り、アステールプラザ広島に向かいます。同学科卒業制作選抜展のワークショップを体験しました。

「うごくロボットとあそぼう！」

3月8日 場所：府中ひかり幼稚園(安芸郡府中町)

3月23日 場所：明和保育園(呉市)

3月28日 場所：船越公民館(広島市安芸区)

工学部 情報制御実験室 松尾教授と学生たちが製作したロボットが幼稚園等を訪問。人気キャラクターの登場に子供たちも大喜びです。

★ 今後の主な
行事予定
(赤字は公開行事です)

大学・短大	水無月祭 (短6/4)	ソフトボール大会 (大6/19)	学外展 (大7/17)
	前期末試験 (大8/4~10 短7/29~8/2)	オープンキャンパス (大7/31 9/11 短6/26 7/24 8/21 9/25)	夏期休業 (大8/11~9/19 短8/7~9/7)
高校	新入生集団合宿 (5/20~24)	体育祭 (6/11)	期末考査 (7/4~8)
	クラスマッチ (7/16~19)	終業式 (7/20)	アメリカ語学研修 (8/1~15)
	保護者対象入試説明会 (8/27)	始業式 (9/1)	

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536